

## 第6期宮前区区民会議第2回準備部会 摘録

日時 平成28年7月14日(木) 18:00~20:15

会場 宮前区役所4階第2会議室

出席者： 川田委員長、青柳副委員長、影山副委員長、荒川委員、老門泰三委員、大久保委員、  
小田委員、葛西委員、黒澤委員、佐藤委員、砂川委員、滝本委員、田辺委員、椿委員、中里委員、  
中村委員、山田委員、山部委員

事務局：(高石企画課長、小山担当係長、米塚担当係長、小西職員)

欠席者：老門聰子委員、大木委員

議題：専門部会の審議テーマ、メンバーについて(公開)

傍聴：0人

## 第 6 期宮前区区民会議 専門部会構成（案）

（第 1・2 回準備会での討議結果を受けて）

### 専門部会 A：（仮称）地域福祉 部会

#### 全体キーワード（順不同）

ソフト、目標・未来像、人のつながり、支え合い

#### テーマ（順不同）

防災…防災意識

地域福祉…地域包括ケアシステム

高齢者…高齢者課題

子育て…子・孫育て

世代間交流…世代間交流・場づくり・人づくり

地域コミュニティ…つながり強化

その他…テーマの継続性

#### メンバー（50 音順）

青柳、老門聰、大久保、小田、葛西、砂川、滝本、椿、中里、中村（10 名）

### 専門部会 B：（仮称）地域活性 部会

#### 全体キーワード（順不同）

ハード、インフラ、目的、情報、市民活動・運動支援

#### テーマ（順不同）

交通…交通インフラ、不便解消

住環境…住環境、定住環境

魅力発信…愛着強化、魅力発信

産業振興…働く環境

緑・農…農地や緑の保全、農業振興

その他…過去の検証、中長期課題の把握・対応

#### メンバー（50 音順）

荒川、老門泰、大木、影山、黒澤、佐藤、田辺、山田、山部（9 名）

※専門部会での調査審議で、テーマやターゲット等を更に絞り込んでいく。

※任期 2 年の終わりに、調査審議の成果として、区長へ「地域課題解決に資する提案」を提出する。

※各部会の審議状況は、全体会で部会長が報告し、全体で質疑・意見交換する時間を持つ。

※過去の区民会議の討議内容や現在の区の施策や取組状況、その他調査審議の過程で委員が知りたいと望んだ情報については、事務局は都度可能なものを収集・提供・提示する。

## 議題：専門部会の審議テーマ、メンバーについて（フリーディスカッション）

中里委員 テーマを分ける基準が難しい。

川田委員長 後で変更も可能ですので、まず二つに分けてみましょう。

影山委員 分け方は多少強引になると思うが、部会が始まってから、部会の行き来は可能なのか？他人の意見を聞いたり読んだりして自分の意見が変わってくることもある。

一つ目の交通・防災・生活環境などは「インフラ」、全ての「土台」となるべきものだ。

二つ目は「福祉」、子育て、高齢者などの問題。これは例えば「目標」というような言葉で表せるのではないか。前者は国交省、後者は厚労省・自治省のイメージだ。

三つ目の「情報発信」は何を発信するのか、目的は何かなど、扱いにまだちょっと迷っている。

四つ目の「世代間交流」や「コミュニティ」は今後の絵を描く時に必要な「人のつながり」。「福祉」との関係性が強いのではないか。

全体を通して見ると「インフラ」などの我々が拠って立つもののグループがまずあるのではないか。

黒澤委員 「その他」の合理的な課題の捉え方、過去課題の検証などに拘りたい。区民会議で取り上げるべきテーマかどうかは議論があるが、これまでハードの課題がなかなか解決してきていない。それを検討するための方向づけをしたい。

川田委員長 ハードの課題の取り上げ方法について、お考えが有りますでしょうか？

黒澤委員 区内の西部や北部には不便を感じられている方が多く、「川崎のチベット」などと呼ばれることもある。何とか便利さを向上させていかなければこれからは人が入って来ないだろう。例えばバス路線では向丘から平を通り、たまプラーザへいく路線が現在テスト中だ。もう一つ緑地公園から、鷺沼に至る路線について、もっと近道のルートができるのではないか。こうしたことをどういう風にやっていこうかということになると思う。

川田委員長 インフラは区だけでなく、市全体の課題になる。町内会連合で検討、要望などを出している。区民会議としてどういう風に提案をしていくかが重要です。

田辺委員 まちづくり協議会の交通専門部会で20年間コミュニティバスの導入など検討してきたが、実現されたのはまず「虹バス」という虎の門病院分院に行くルート。それから鷺沼発センター北行きバスのセンター南へのルート延長、聖マリアンナへ行くバスルートの増便。以上3つのみです。本当は白幡台や有馬・東有馬などの地区にコミュニティバスを導入したいのだが、実現していません。例えばどうやって市民を巻き込んだ運動をつくっていくのかという視点で考えるなら賛成だが、これまでと同様の提案・要望で終わっては実現性がないので、辞めた方が良いと思います。

葛西委員 インフラは区民会議ではなく、市に提案すべき問題だと思います。ただ、毎回話題に上がるのは区民が必要と思っている方がいらっしゃるということです。そうした区民や、今活動している人達をどうやって支援していくかという話にもっていかないと難しいのではないか。

川田委員長 区民会議は要望団体ではありません。そこは間違えないようにしたいです。

老門委員 バス路線の実現には採算性も必要です。実現性もある程度考えなければならない。私の希望テーマは「住環境」だが、あまり費用をかけずに、歩道に看板などを建てる形で、歩いて健康になれるウォーキングコースをつくってはどうかと考えました。

中村委員 馬絹に住んでいるが、病院に行きたい時に、自分の車が故障、足も痛くて、大変だったことがあります。馬絹から神木方面へのアクセスがすごく不便です。周辺の高齢者も、宮崎台の駅に行くのに坂がきつく、息がきれると言います。ボランティア輸送を活用していく仕組みを考えてはどうか。

これからは高齢者の時代だ。病院にいくと足の悪い方がいっぱいいらっしゃる。

老門委員 「福祉有償輸送」ですね。

青柳委員 「福祉有償輸送」は県外、地方などで事例も出てきているように聞いています。運送法など法律の面からクリアすべき課題もあるようです。区で独自につくって、横のつながりで解決できるような仕組みが実現すると良いと思います。

佐藤委員 インフラは実現が難しい面もありますが、かといって削っていいものかどうか。他テーマと関連づけて取り込んでいくような方向で考えられないか。例えば私の希望する「魅力発信」のテーマでも、交通インフラが整備されれば各魅力スポットへのアクセスが便利になる。ここがよくなれば、ここも良くなるというようなプラスで考えたいです。

川田委員長 バス路線や電車という話になるとどうかと思うが、住環境や高齢者の足を考える必要はあるだろうし、他の課題と関連づけていくことができると思います。

山田委員 交通インフラは区民会議には合いにくいテーマだ。しかし、先日参加した鷺沼駅のシンポジウムでは東急電鉄から「全体のインフラに寄与したい」との発言もあった。提案できる良いタイミングがあるとしたら、ここ数年の間ではないか。鷺沼町会でも長年、地域から病人を聖マリアンナに運ぶバス路線の実現を訴えているが、まだ実現していない。

川田委員長 確かに鷺沼周辺は今開発されているところで、チャンスと言えるかもしれません。大きく括って部会の中で考えていってはどうか。

黒澤委員 任期2年間の期間をどう考えるか。区長への提案の実現性もあるが、中長期的な課題も区の課題である。

青柳委員 前期の議論の中で、市でやるべきテーマは外し、区で解決していくべきテーマを取り上げてはどうかという意見があった。ただ、私は今後の為の種を蒔いていくのも区民会議の役割と考えている。今の段階では、実現性がどうかということよりも、いろいろな問題を取り上げて、共通の視点を持つことを目指さないと、なかなか決まらない。

事務局（課長） 区民会議の検討でまとめられた提案を区が受け止めて、区の中で事業化したり、市に投げかけたりという考え方は良いと思いますが、区民会議の原点に立ち返りますと、それだけでなく、自分たちでできることは動いていく、NPO や市民団体など他の団体と連携が必要であれば連携していくということもあるかと思えます。

また、こうしたテーマの分類は、大分類、中分類、小分類などツリー化の構造を持っていますが、これまでの意見はどちらかという大分類、大テーマの議論に集中していて、なかなかテーマの絞り込みにはつながらないと感じています。どこかで選択・整理をしていかなければなりません。

ソフト系の話は、市では生活とくらし、イベントなどの形で並列的に整理されていますが、ある程度束にできる部分もあります。ハード系については、先ほどからいろいろな意見が出ていますが、区民会議に馴染まない部分や実現性について、念頭に置きながら検討いただけると良いかと思えます。

川田委員長 例えば「住環境」のテーマに「交通」などが含まれていると考えられるのではないかと。「過去の検証」などもその過程でできるだろう。もう一方は福祉のケアシステムなど人がつながっていくイメージが強い。いかに人をつなげていくか。

小田委員 他区の区民会議の検討状況（別紙資料）を見ると、防災や世代交流など、どこの区も同じようなテーマに取り組んでいる印象だ。そうなのであれば、実際にどういうやり方で、何をするのが重要だ。例えば「防災」について川崎区では、「防災手帳」や「地域防災マップづくり」など、普及啓

発の取組につながったようだ。2年間という限られた任期の中で、ある程度解決できることをとりあげ、委員や様々な活動の協力を得て、できるだけ具体的な形にもっていきたい。

コンサルタント テーマを分類することも大切ですが、それに捉われすぎず、先ずそれぞれに軸となるテーマを設定できると良いと思います。集計結果で数が多かったものがもしかしたらそれになる。それ以外に例えば「交通」課題に取り組みたいという方が多いのであれば、軸となるテーマと、交通をどう絡めて考えていけるか、考えてみると良いと思います。

ご意見があったように「交通」を活動支援、市民支援という観点からとらえれば「福祉」と絡めて考えることができるでしょうし、「魅力スポットへのアクセス」という観点から考えれば、「魅力発信」と絡めて考えることができます。

影山委員 「交通問題」を「多世代交流」で解決できるのではないか。例えば「白タク」の活用。運輸省の許可が必要だが、退職者が小遣い稼ぎで近所のおばあちゃんの足になる。

私が気になっているのは、「宮前区は、定住意向が低い」というあるアンケート調査の結果で、その理由は利便性だそうです。専門家に任せるばかりでなく、方法論的な議論はできるのではないか。

また二つに部会を分けてしまった時に、どうしても片方には入らないテーマが出てきそうです。その時に、途中で部会を移ることができるのか。

佐藤委員 私もそこが気になっています。例えば「交通」の取り入れ方で一方の部会で良いアイデアが出たなら、もう一方でもそれが共有されるような仕組みが確保されているのか。

中里委員 調査審議の過程で本当に様々な良い意見が出るのですが、それらが消えてしまう。それをきちんと残す方法を考えれば、皆さんストレスがたまらずに行けるのではないか。

大久保委員 例えば「交通」など、毎回必ず意見が出るテーマは、大きな継続性のあるテーマです。

こうしたテーマに対してはこれまで、ここまでできたから、次はこうという様な、「道筋」が見えると良い。前後が見えない中で「2年間で何ができますか」という切り方をされている感じだ。そうすると、自分が所属している2年間でこれはやりたいか、やりたくないかという話になる。過去10年間の討議の内容や結果の検証をどこかでやらないといけませんが、その詰めがどうも甘い。その成果を受け継いで私たちの活動を始めたい。情報が共有されない状況で話をしてもなかなか建設的に前に進まず、もったいないと思います。

小田委員 過去の区民会議の提案、事業化の状況を整理した資料を頂いています。例えば第1期の検討は「公園体操マップ」「よろずシニア相談書」「地域デビュー講座」などに繋がりました。「よろずシニア相談所」には私も相談にいったことがあります。私が受講した「防災推進委員養成講座」も区民会議の提案から発足した宮前区独自の制度です。

第6期で過去にも取り組んだテーマを取り上げて構わないと思うのですが、同じようなやり方ではなく、何か新しい視点が必要です。全てを取り上げるのではなく、絞っていく必要があります。テーマが決まればそれに関連することが見えてくるのではないのでしょうか。

黒澤委員 前回会議で「調査チーム」で宮前区のハードの課題を調査してはどうかという意見がありました。現状の課題、過去の提案など、全員が共通認識をもって話ができれば進むのではないか。

川田委員長 8月4日の全体会で二つの専門部会を立ち上げたい。過去の検証はその後じっくりやっていき、その中でテーマを絞り、部会の名称が決まってくれば良いと思います。双方の部会の審議状況については、事務局にお願いして、随時情報共有しながら進めたいと思います。予算的なこともあり、公式な会議が開催できる回数は限られていますが、委員が必要と考えるのであれば、自主的な形で日

程を設定し、話し合っていくこともできると思います。

佐藤委員 部会の進め方についてまだイメージがわからないので、お聞きしたいです。それぞれの部会は部屋等も別ということでしょうか？情報交換はほぼないのでしょうか？

川田委員長 日程も別です。それぞれで話し合い、全体会でそれまでの経過をそれぞれ発表します。

コンサルタント 会議は完全に別。委員の方が途中で部会を移るというようなことはありませんでした。

佐藤委員 悪い意味の縦割りにならないか心配です。有用な情報交換はできる形が良いと思います。

田辺委員 5期の経験からいうと、佐藤委員の心配は杞憂に終わると思います。もちろん縦割りで、別々に討議するのですが、全体会でそれぞれの状況報告をし、それに対する意見交換や質疑も行います。

川田委員長 それぞれの部会で部会長を選び、部会長に全体会でそれまでの経過をご報告いただきます。

まず二つに大きく分けて部会を立ち上げ、その中の話合いで方向性の決定、テーマの絞り込みをしていただければと思います。いかがでしょうか？

コンサルタント 各部会では関連する過去の取組なども、もう一度改めて事務局として提示してまいりたいと思います。

山部委員 それがないと、新規の者は全然わからないです。我々がやりたいと思っても、以前にやったものであれば、やっても仕方がないと思います。

小田委員 ある程度の柱ができるまで人間を分けない方が良いのではないのでしょうか。

青柳委員 とりいそぎ現状の分類で人が分かれてみて、検討してはどうか。

事務局（小山） 皆さんからいただいた意見・課題は全て大切なテーマと考えていますが、全て同じレベルで扱って、関連づけて考えていくと収拾がなかなかつきません。それぞれの部会で、中心となる、核になる様なテーマを定めないとなかなか議論が進まないかと思えます。

小田委員 核となる課題が決まらなないと、どちらの部会が良いか決めにくい事もありそうです。

葛西委員 大きく分けると「福祉」と「地域活性」と言えるのではないかと思います。

コンサルタント 一方は「福祉」であり、「ヒト」であり、「人のつながり」から考えていこうというテーマ。「地域福祉」は提出された意見も一番多かったですし、それがこちらのグループの核となる課題になるのではないかと。その解決に「支え合い」「人のつながり」からアプローチしていくイメージです。

もう一方は「定住」とか「環境」「情報」であり、住み続けていくための「情報」や「ハード」といったイメージのテーマです。

大久保委員 その括りだと福祉は両方に絡んでくるイメージです。「住み続けるための環境」というと福祉がかなり重要となってきます。境目がはっきりしなくなってきます。

事務局（小山） もう一つ下の階層で分けた方が良いでしょうか。

大久保委員 「住環境」「住み続ける」というと福祉に関わるものが本当にたくさんあります。

小田委員 「魅力発信」はもうとりあげなくては良いのではないかとのご意見もありました。柔軟性がある形で新しい視点から捉える必要があります。

中里委員 前期でも「地域住民のつながり」は根底を流れるテーマとしてあったと思います。あまり細かく考えるよりも、どちらでもできそうな気がします。

田辺委員 「福祉」の方は、討議対象がある程度イメージが沸くのですが、もう一方の方はまだ様々な異なるテーマが混在していて、イメージしにくく感じます。まだ少し無理があります。

老門委員 Aはソフト、Bはハードとざっくり分けて、お互い交流できれば良いのではないかと。

コンサルタント 「防災」のテーマはハードというよりも、「人とのつながり」などソフト面から捉えて

いた方が多いと私は感じていたのですが、そうすると、「防災」はAの方でしょうか？

事務局（課長） 私もBを見ると悩ましい面があります。くくりが分かりにくく、総花的になってしまっている印象です。

山部委員 何度も会議を開催してから移動するのはどうかと思うが、最初の部会で話し合った時に思っていた内容とあまりに違った場合、部会を移れるようにしてはどうか。

事務局（課長） Aは良いが、Bは膨らんでいる。やはりもう少しBはテーマをもう少し絞り込んだ方がわかりやすくなりそうです。

影山委員 今、Bの中の各テーマは同じ大きさに捉えられていますが、これが検討を進めていく中で差が出てくるでしょう。あくまでとっかかりのイメージで見ればよいのではないか。テーマを大きくするか小さくするかはメンバーの力量にもかかってくる。

事務局（課長） 今日のところでは、特にBは、各テーマの比重が変わってくるかもしれないということ踏まえた上で選んでいただければということでしょうか。

椿委員 私は「防災」を人とのつながりで捉えていたので、防災がBの側にあると、どちらにしようかすごく迷います。

影山委員 防災も拠点とかマップ、施設などの面から考えるとハード色の強いテーマになります。市民活動的視点だとA、都市計画的視点だとBになる。

川田委員 両部会とも福祉に関連する話になっても良いのではないかと。Aはソフト面から、Bはハード面から考えれば良く、片方で扱っているから、もう一方で扱ってはいけないということではない。まず分かれてみて、その中でそれぞれのテーマを方向付けしていただいた方が良いのではないかと。

コンサルタント 部会を二つに分けるのは、この人数（20人）で一つのことを話し合うのは非常に大変だからということもあります。今の分類でどちらに所属するか、迷ってしまう方が多いようであれば、最初の数回を一緒に開催したり、最初数回の内は移動を可とするなども考えられるかと思えます。

川田委員長 委員長としては、両方の部会に参加させていただきたいと考えています。

黒澤委員 自治会単位で住民が感じている地域課題を考えると、Aの方のソフトの課題は、以前から課題として自治会でも取り上げられていた、知られた課題です。

それに対しBのハード関連の課題は魅力発信や産業振興など、地域住民がまだよく分かっていない課題がある。また「交通」などの課題は地域によって事情が大きく異なります。これらの問題を一括に考えてしまうのは非常に難しい。やはり「調査チーム」を別立てした方が良いのではないかと。

影山委員 宮前区らしさとは何かを考えると、「緑」と「農」をBの方に加えたいです。

小田委員 緑や農地の減少は相続税等の問題と関わっていて、どうしようもない事例も多いようです。

老門委員 長年、町会に関わっています。役員は別ですが、一般の住民が地域の課題を理解しているとはまだまだ言えない状況です。「福祉」の分野で「互助」や「支え合い」などと言っても全く関心を持たない方も多い。これをどうやって盛り上げていくかが、これからの課題と感じています。

黒澤委員 「防災」については、近年関心が高まっています。区民会議でも10年前の区民会議の提案からかなりいろいろやられているところです。

荒川委員 この10年、宮前区の緑は確実に少なくなってきました。先日、市主催、都市農業活性化連携フォーラムがあり、市長も出席し交流。農地は減っていますが、この10年で随分様変わり、若手の農業に目覚めるかた、熱心な農家も増えてきています。新たに耕される土地がある一方で、生産緑地でいいなと思っていたところが建売業者の土地になっていたり。JAでも株式会社をつくり、認定

農業者を育て、農地を守り拡大する取組を始めたようです。市議員で農業委員になっている方もいらっしゃると思います。宮前区の住民としても熱心な農家さんを支えられないかと考え、この10年来援農ボランティアをしています。

川田委員 部会は手続き上、どのように決められるのでしょうか？

事務局（小山） 区民会議条例の施行規則に「専門部会に属する委員は委員長が区民会議に諮って指名する」とあります。本日ある程度希望をとっておき、全体会で再確認、正式決定ということになるかと思えます。

田辺委員 どうしても部会の数は二つでしょうか？一部会7人くらいにすればより話しやすくなります。3つ目の部会で「過去の検証」をぜひやりたいと思います。

コンサルタント 予算等の関係上、公式な会議の回数の上限がある程度決まっており、3つの部会となると会議回数を減らすなどしなければならず、運営も大変になります。

事務局（小山） 専門部会のトータルの回数が決められています。

田辺委員 柔軟な運営はできないものでしょうか？

黒澤委員 B-1、B-2 というような形は可能でしょうか？

事務局（小山） 5期の魅力部会ではある程度提案の方向性がまとまった段階で、部会をさらに二つのチームに分け、それぞれ集中的に討議した例がありました。同日開催であれば、回数の問題は解決できるかと思えます。

田辺委員 委員が自主的に喫茶店で話し合ってもよいです。非公式なものも含め柔軟に考えたいです。

コンサルタント 事務局としてはできる限りの支援はいたしますが、非公式なものが増えると、出席ができないなど、各回への運営支援が充分できなくなる可能性があります。

中村委員 今日配布された他の区の区民会議の提案内容の資料を見ますと、3つ以上のテーマに基づく提案がされている例もあるようです。

事務局 詳細は分かりませんが、必ずしも部会が3つ以上あったわけではなく、一つの部会の中で複数のテーマや課題を扱って、複数の提案をしている例もあるようです。

（この後、順次グループ分け）

滝本委員 「防災」が一番やりたいと考えていたのですが、取組のターゲットなどを考えると「福祉分野」の方が私の関心に近いと思います。

コンサルタント 先ほど椿委員も同趣旨の発言をされていたかと思えます。もし皆さんが同意できるなら、「防災」をAのグループへ移動しては如何でしょうか。

中村委員 熊本でも高齢者が困っている事例などを聞きました。Aに持ってきて良いと思います。

（Aへ「防災」を写す）

田辺委員 B部会は今後の討議の中で、いくつかにチームが別れそうな気がします。

（「部会構成案：二つの部会の仮称・テーマやキーワード・メンバーの案」を前掲のとおり決定。）